

第2節 群馬県内出土初期須恵器把手付碗について

高林三入遺跡C区7号住居から出土の初期須恵器把手付碗は、県内では9例目の発見で、また、竪穴住居内から多数の土師器と共伴して出土しており、貴重な資料である。

把手付碗は、別名コップ形土器とも呼ばれている。我が国の須恵器生産の開始期である陶邑窯址群大庭寺遺跡からも出土しており、以後TK47形式までその存在が確認できるが、その後、国内では生産されなくなる。その変化の方向性は、把手の加飾性の喪失、体部の櫛描き波状文や沈線の簡略化・喪失などに端的に現れている。

そこで、本稿では、県内出土の初期須恵器把手付碗の出土遺跡とその概要を紹介したい。県内では、第249図（第35表）のように、9遺跡計9点の把手付碗が出土している。詳細は観察表を参照されたいが、ここでは、9点の把手付碗について、年代を含め、形や法量（大きさ）、成形・整形の技法、胎土など類似点・相違点を簡単に言及してみたい。残念ながら遺物番号5（穴池遺跡）、8、9（ともに前橋市内表採資料）は実見することができなかったので、実測図からの観察である。

まず、年代観であるが、遺物番号1～3、6～9には体部に櫛描き波状文があるが、波状文が喪失している4（阿曽岡権現堂遺跡）、5は他の土器に比べて新しいと考えられる。特に、4は器形が歪んでいる稚拙な作りで、胎土は秋間か高崎市観音山丘陵産と看取できた。また、第249図の共伴している土師器等から検討すると、1（本遺跡）、3（仙石丘山遺跡）は、5世紀第2四半期、2・5～7は第3四半期のものと考えられる。

次に、形や大きさであるが、2（成塚住宅団地遺跡）・6（下高瀬上之原遺跡）・8は、口縁部径10cm程の碗形を呈し、類似している。4と5も径8cmほどの碗形を呈すが、4は口縁部が内湾し、5は口縁部が直立する。1・3・7・9は、口径7～8cmで、まさにコップ形を呈する。

最後に、成形・整形、把手の取り付け方について観察してみたい。3・7は左回転轆轤整形、1・2・4・6は右回転轆轤整形、5・8・9は不明である。特に、1（本遺跡）だけに看取できる技法が二つある。一つは把手部の付け方で、上の部分は体部に穴を開けてから、把手を差し込んで取り付けられている。二つ目は、体部の作り方で、円盤状の粘土に、粘土を巻き上げて成形した後に、腰部に再度粘土を巻き付けて成形したと考えられる。そのため、底部が低い高台のような作りになっている。この二つの技法は、2～9には看取できない。特に、把手部は体部に貼り付けてから、指で押さえて取り付けられているため、3・5～8のように把手が剥がれて喪失してしまっているものが多い。体部下半はヘラ削り・ヘラ撫で調整、底部は手持ちヘラ削りで切り離されている。

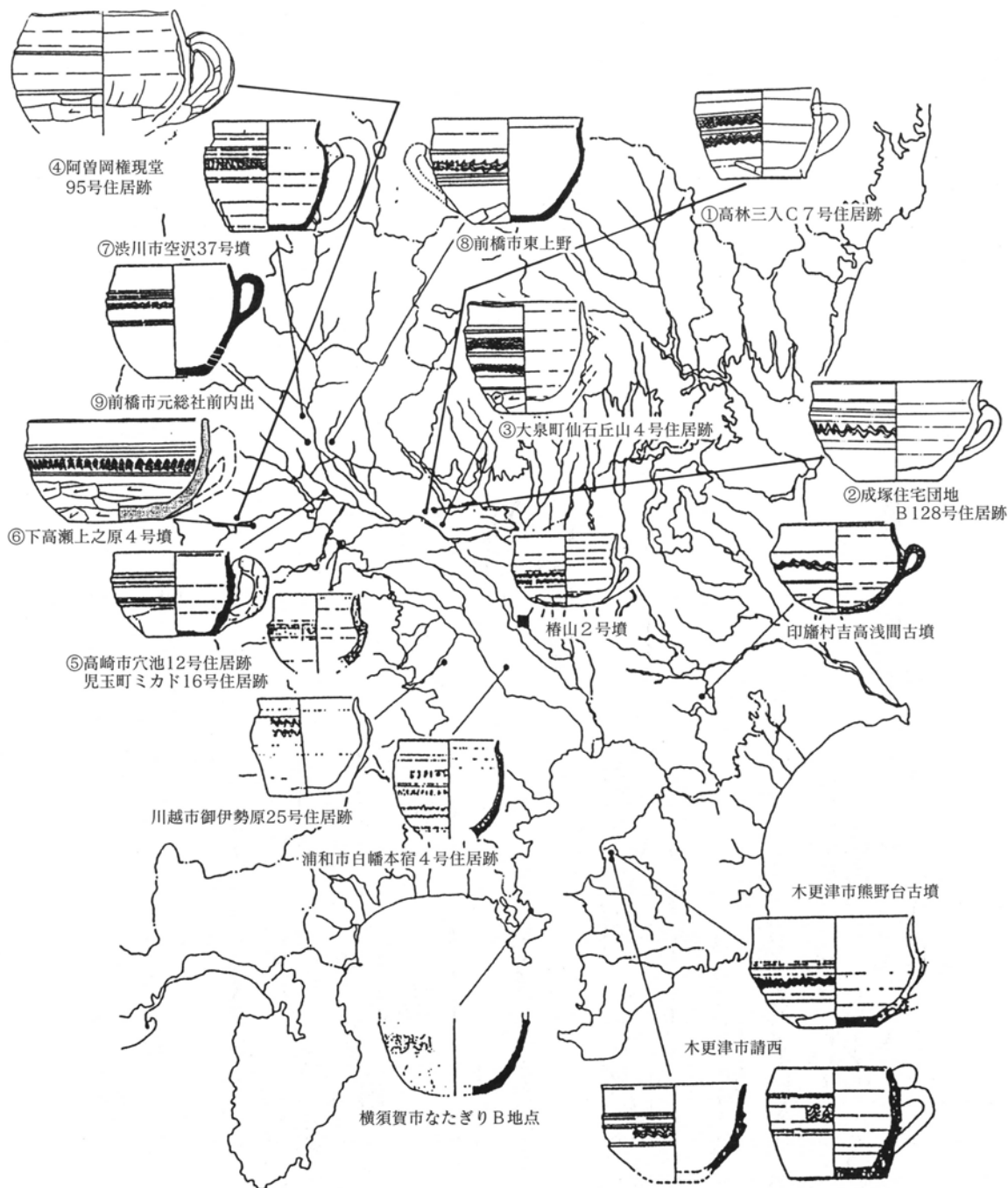
今回、本遺跡C区7号住居から初期須恵器把手付碗が出土したことは大変意義深く、今後、該期土器研究の上で活用されていくことを期待して、本稿のまとめとしたい。なお、本稿をまとめるにあたり、下記の方々からご教示・ご協力を頂いた。記して感謝の意を表したい。

石川正之助、関本寿雄、腰塚徳司、矢島博文、吉田好孝、綿貫邦男、坂口一、石塚久則

引用・参考文献

- 1999『東国土器研究第5号』（東国土器研究会）
- 1994『下高瀬上之原遺跡』
（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団）
- 1992『成塚住宅団地遺跡』（太田市教育委員会）
- 1997『東八木遺跡、阿曽岡・権現堂遺跡』
（富岡市教育委員会）
- 1989『空沢遺跡第8次-Q・R・S地点発掘調査報告書-』（渋川市教育委員会）
- 1987『第8回三県シンポジウム東国における古式須恵器をめぐる諸問題』（北武蔵古代文化研究会・

所）



第249図 関東地方（群馬県内）出土の把手付埴
（東国土器研究会（1999年）第5号328頁を改変）

第35表 群馬県内出土須恵器把手付埴

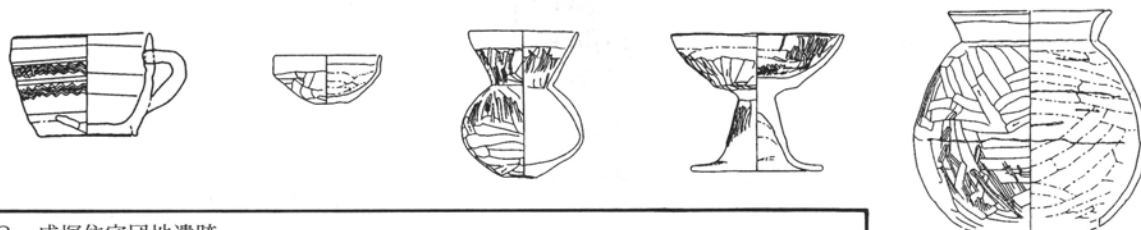
No.	遺跡名	所在地	遺構名	遺構の時期	文献(報告書等)	年代等
1	高林三入遺跡	太田市岩瀬川町	C区7号住居	5世紀中葉(甕なし)	本書	TK216
2	成塚住宅団地遺跡	太田市成塚町	B区128号住居	5世紀前半(甕なし)	成塚住宅団地遺跡(太田市教委)1992	
3	仙石丘山遺跡	邑楽郡大泉町仙石	4号住居跡	5世紀後半(甕あり)	大泉町誌下巻歴史編(大泉町)1983	
4	阿曾岡権現堂遺跡	富岡市宇田阿曾岡	95号住居	古墳中期	東八木遺跡、阿曾岡・権現堂遺跡(富岡市教委)1997	在地産か。
5	穴池遺跡	高崎市倉賀野町穴池	12号住居	5世紀後半(甕あり)	第8回三県シンポジウム 東国における古式須恵器をめぐる諸問題1987	TK23(在地産)
6	下高瀬上之原遺跡	富岡市下高瀬	4号墳	5世紀後半	下高瀬上之原遺跡(群馬県埋蔵文化財調査事業団)1994	TK208
7	空沢遺跡	渋川市行幸田空沢	13号墳+37号墳	Hr-FA下	空沢遺跡第8次-Q・R・S地点発掘調査報告書一(渋川市教委)1989	大阪陶邑産
8	表採資料	前橋市東上野町	畑地	—	第8回三県シンポジウム 東国における古式須恵器をめぐる諸問題1988	
9	表採資料	伊勢崎市中央町	台地上	—	石川正之助氏のご教示による	

第36表 群馬県内出土須恵器把手付埴観察表

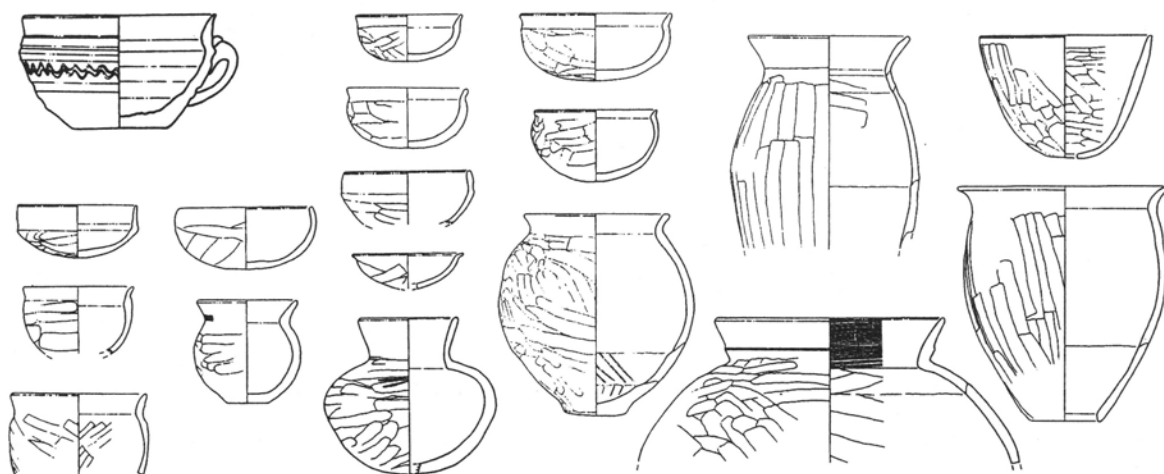
No.	遺跡名 遺構名	部 位 残 存	計測値(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	備考
1	高林三入遺跡 C区7号住居床直	完形	口 7.2 底 4.9 高 5.3	①緻密 ②還元焰 ③N4/灰	口縁部が僅かに3カ所欠損。欠け口の胎土は濃いセピア色に焼き締まっている。外面には2段の沈線とその下に6本1単位の櫛描き波状文を2条施す。体部下半は手持ちへら削り。	本書
2	成塚住宅団地遺跡 B区128号 住居床直	ほぼ完形	口 10.4 底 5.0 高 6.0	記載なし	口縁部内外面横撫で。胴部外面へら撫で。底部外面撫で。胴部に流水文、沈線あり。	報告書の記載事項をそのまま転載。
3	仙石丘山遺跡 4号住居 覆土	把手部分欠損	口 7.0 底 4.5 高 6.4	記載なし	左回転轆轤整形。口縁部内外面横撫で。体部に3条の突帯を持ち、その間に6本1単位の2条の丁寧な櫛描き波状文を施す。体部下半は手持ちへら削り。底部はへら削り。	実測図一部訂正し、筆者が観察した。
4	阿曾岡権現堂遺跡 95号住居	口～体部1/3 (把手残存)	口 8.6 底 — 高 (6.8)	①緻密、黒色鉱物 ②還元焰 ③N6/灰	口縁部内外面横撫で。体部に2条の突帯を持ち、文様はない。全体的に鈍重で、成形が稚拙である。体部下半は手持ちによる弱いへら撫でが認められる。把手は体部に比べ大きく、成形は指頭による押さえが看取できる。胎土は秋間か観音山丘陵か。在地産。	富岡市教委から借用し実測・観察した。
5	穴池遺跡 12号住居 覆土	完形	口 7.8～8.2 底 4.8 高 5.7	①砂粒が多い。	上下の太い沈線による「相対的な凸線」で3段に区画され、文様はない。全体的に鈍重で、口唇部も内面に沈線状の段を持つがシャープではなく、体部下部・底部は手持ちによる弱いへら撫でが認められる。把手は体部に比べ大きくアンバランスの感を抱き、成形は指頭による押さえにより外側がやや劣る。在地産。	第8回三県シンポジウム 東国における古式須恵器をめぐる諸問題から転載。
6	下高瀬上之原遺跡 4号墳 周堀北東	把手部分欠損	口 10.9 底 5.6 高 6.0	①細砂 ②還元焰、良好 ③灰	ロクロ調整。体部に5本1単位の櫛描き波状文。体部下半～底部外面手持ちへら削り。内外面に自然釉付着。把手は貼付部より剥がれる。	報告書の記載事項をそのまま転載。
7	空沢遺跡 13号墳周堀南十 37号墳周堀北	把手部分欠損	口 7.1～8.0 底 4.9 高 7.1	①緻密、白色粒 ②還元焰、良好 ③内面灰黒色、外面青灰色、断面紫灰色	マキアゲ、水挽成形、把手貼り付けで轆轤回転方向は時計と逆回転。口縁は一旦内湾したのち直立し、口唇部は丸い。体部上半に2条の突帯が巡り、その間を7本1単位の波状文が施される。体部下半は横方向へら削り調整。底部外面横方向静止へら削り(弱くへら撫で)回転撫で調整。大阪陶邑産。	第8回三県シンポジウム 東国における古式須恵器をめぐる諸問題から転載。
8	前橋市東上野町 畑地表採資料	完形	口 7.6 底 3.8 高 7.4	記載なし	口縁部内外面横撫で。体部に2条の突帯を持ち、その間に5本1単位1条の櫛描き波状文を施す。	実測図から筆者が観察し記載。
9	伊勢崎市中央町	把手部分欠損	口 10.3 底 5.0 高 6.8	記載なし	口縁部内外面横撫で。体部に2条の突帯を持ち、その間に6本1単位2条の櫛描き波状文を施す。体部下半は手持ちへら削りか。	実測図から筆者が観察し記載。

第5章 調査の成果

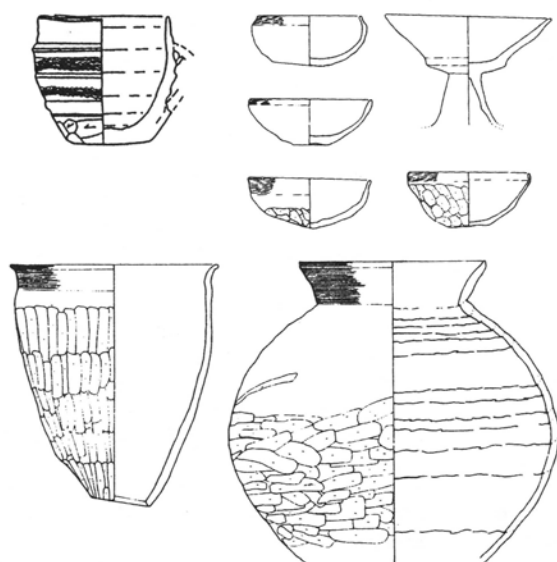
1 高林三入遺跡 (他の土師器の実測図は72・73頁に掲載)



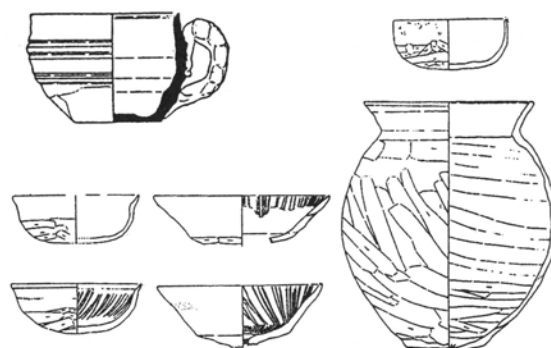
2 成塚住宅団地遺跡



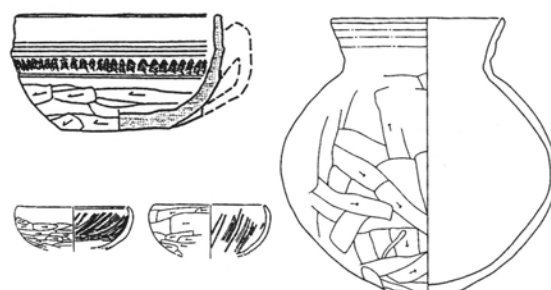
3 仙石丘山遺跡



5 穴池遺跡



6 下高瀬上之原遺跡 (他に円筒埴輪が出土)



(把手付碗は1/4
土師器は1/8)

7 空沢遺跡



第250図 県内出土の把手付碗と共伴土師器